

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設された基督教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 182号

「内なる人は」日々新たに…

鮫島 則雄



だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。

Ⅱコリント書4章16～7節

この度の日本クリスチャン・アシュラム連盟の60周年記念全国大会が九州アシュラムの開催日と重なり、事務局としての奉仕のため、全国大会に出席できず、本当に残念でした。

当日の聖会が盛会となるようにと祈りつつ、私たちは福岡『黙想の家』で記念すべき第50回目の九州アシュラムを開催し、こちらでも大いに恵まれて家路についた次第です。

現代は「産みの苦しみ」を体験中なのでしょうか…。毎朝の早天で祈る度ごとに、産みの苦しみを味わっているように思えます。

超高齢化社会と言われている中で、教会にも高齢化の波が押し寄せてきています。私たちの教会も高齢者の仲間入りをした私が「若手」の部類に入っている有様です。早天祈祷における毎朝の祈りには「若者を教会に与えてください」が毎朝加わります。もちろん「高齢者も大歓迎です」と付け加えることは当然ですが…。若者に魅力ある教会をとの企画があちこちで試みられているようですが、教会のすべての業の根底には「聖霊の力」なくしては本当の成長には繋がりません。第二次世界大戦後に基督教教会ブームがあってクリスチャン人口が急増したと聞いていますが、霊的成長ではなく、米国の姉妹たちから届く「ララ物資」目当てがほとんどであったとの事…。

日本における聖霊の火は残念ながら「未だ点火せず」のようです。一つの教会、一つの教団ではなく、全日本に主が建てられたキリストの教会が、もっともっと神学や教理の壁を超えて祈りを結集し、全知全能の主の御手がすべての教会の上に伸びることを切望するものです。

主は世界中至るところを見渡され、御自分と心をつなげる者を力づけようとしておられる。(歴代誌下16章9節a)。

外なる人の衰えていく私たちですが、内なる人は日々新たにされている私たちです。このアシュラム運動がもっともっと主に用いられ、聖霊の火を全日本の教会に届ける働きの一助となれば幸いです。

(日本バプテスト連盟・門司港基督教牧師)

霊 想



「不安解消、癒の神髄」

ヨハネ21章15〜22節

日本ホーリネス教団

伊藤 節

I 主イエスはペテロの人生の目的と其の達成手段とを明確にされました(15〜17)。

① 人生の目的…主イエスを愛する事。

② 其の達成手段…主イエスの羊を飼う事。

ペテロに示した此の①項②項は聖書の言、ルカ10章27〜28節他「第一に神を愛する事」を①項で、「第二に隣人を自分を愛する様に愛する事」を②項で指し示すものです。

ペテロのみならず各人に自分の人生の目的と其の達成手段とが明確になる事は其の人の不安や悩み、艱難等の大部分を解消します。

更に、主イエスを愛する事は真理(ヨハネ14:6)を愛する事で、真理に生きる人生こそ悔い無き人生です。真理は神であり(ヨハネ

18:37〜38)、神を生きる人生こそ本物です。

II 主イエスはI項の人生の目的と其の達成手段に生きるペテロに、なお挑む不安や悩み、艱難等に勝利する更なる力を与えられました(18〜22)。

① ペテロは此の世では捨てられる(18)。

ペテロに迫害と殉教を覚悟させました。

神と悪魔とに妥協や協調は皆無(ロマ12:2)であり、ペテロのみならずI項に生きるキリスト者は此の世に嫌われ捨てられる(ヨハネ15:18〜25)事を覚悟させています。

② キリスト者になっても罪に陥る(19)。
ペテロは「従います」と即答していません。

主イエスはペテロの不服従を責めず、お従いするまで待つておられます(ルカ15:20)。

ペテロのみならずI項に生きるキリスト者に対しては其の都度悔い改めて主イエスにお従いするように待つて居られます。

③ 神の定めを受け入れられない(20〜22)。

ペテロは、同僚ヨハネは殉教しないのでは、と気に掛り、動揺しました。

主イエスは人生其々異なってもペテロもヨハネも同じ様に愛している事をペテロに気付かせ、ペテロを服従へと導かれました。

ペテロでなくても私達は同僚と自らを比べて一喜一憂する事が有ります。兄妹を持つ子供への親の平等の愛が子供其々には平等と信じられていない事があるのに似ています。神は全てを愛し、心に留められ、偏り見る事なく、最善を為して居られます。

III まとめ

① ヨハネ21章は魅りの主イエスの地上事実で埋められ「人間イエスは神である」事を実感します。そして、Iコリント15章の聖書の言「主イエスの御再臨と其の時起こるキリスト者のからだの魅り」の御約束は必ずキリスト者に実現するもので、勝利の人生を確約する希望です。此の希望は不安や悩み、艱難等を凌駕し、信ずる者に忍耐と光り輝く神の国を目指す尽きない力をお与え下さいます。

②、前①項を確信の上、自分の人生の目的と其の達成手段とを明確にする事が不安や悩み、艱難等を解消する一番の秘訣です。

③ 常に、主イエス(神)と自分との信頼関係を密に維持する事です(インマヌエル)。遭遇する不安や悩み、艱難等に対し主イエスの名を呼

べば(ヨエル2:32)新共同訳3:5) 其れ等から解放されます。恰も、幼児が最も信頼している母親の名を呼び互いの眼が合えば其れだけで、原因究明等せずとも、幼児の不安や悩み等は霧消し幼児が安らぎを得るに、似ています。

六十周年記念メッセージ



「あなたは、わたしに従いなさい」

ヨハネ二十一書二十二節

米国 ワシントンアシュラム理事長
アン・マシューズ・ユーニス

私は若い頃、祖父スタンレー・ジョーンズの秘書兼アシスタントとしてインドやアフリカに数カ月同行したことがあります。祖父は聡明で魅力的な牧師であり、イエス・キリストの伝道者でありました。私は祖父の説教やメッセージを数えきれないほど聞きました。同じ話も何度も聞きました。一日に礼拝を四

回、五回出ることもあり、何百人もの人たちがキリストに生涯を捧げる決心をする場面を見てきました。祖父の献身と信仰心、そして祖父のキリスト教の伝道への決意を心から誇りに思いました。しかし、私の父ジェームス・マシューズと祖父の決意は、当時の私にはあまり関係のないことでした。つまり、父と祖父の影響で私が伝道の道に進むとか、その他のキリスト教の奉仕などに駆り立てられたというようなこともなかったのです。少なくとも当時はそう感じていました。しかし、私はリハビリ施設で働き、また、心理学専攻博士課程、臨床心理士として三十五年間仕事をしてきました。その後、神学校へ行き、神学研究修士号と牧会博士号を取りました。時間の許すときは祖父の神学論についての執筆をしました。今では聖霊が私を神に仕える新しい道に導いてくれているのだと信じています。新しい道は、忙しい毎日の中で学んだことを通して、つまり祖父スタンレー・ジョーンズの人生、使命、ミニストリーを通して示されたわけです。

祖父スタンレー・ジョーンズは、「アシュラムの会員になるにはどうしたらよいですか？」という質問をよく受けました。祖父の答えは、「それには条件があります。一つだけあるのです。あなたには自分が変わりたい、という思いがありますか？ということですか。変わりたいならどうぞお越してください。もし、変わりたいと思っておられるなら、私たちができることは何もありません。」変わることの重要なカギは、そしてすべてのことは、自分を明け渡すということにかかっているのです。

スタンレー・ジョーンズは、クリスチャン・アシュラムのプログラムを考える際に、すべてのアシュラム参加者にイエス・キリストによって「変わることができる」という確信を持つてもらおうための構想を練りました。

アシュラムでの第一回目の集まりでは、「開心」の時間が与えられます。参加者に三つの質問がなされます。それは、「なぜあなたはここに来たのですか？」「あなたの望みは何ですか？」「あなたが本当に必要なことは何ですか？」という質問です。このときアシュラム参加者は、自分の心配事などを他の参加者と共有します。

参加者が示したそれぞれの必要ニーズは、アシュラムの伝道者や聖書の教師のテーマの題材となります。スタンレー・ジョーンズは、アシュラムでの説教は、説教ではなく、処方箋なのだ、と言っています。

アシュラムに参加した人たちが示した必要ニーズに答えを与えるという事です。

アシュラムのプログラムの最後「充満の時」の間では、参加者たちはそれまで抱えていたそれぞれの問題や問題が贖いによって解決したことをグループごとに体験します。充満の時は、イエス・キリストの力によって人生が変えられたことを感じる事ができる最も素晴らしい時間です。

スタンレー・ジョーンズは、アシュラムを水門に近づいた船のようにだと表現しました。船は、水門内に入った後、一方の水門が下りると一時的にそこで待機し、その後、何トンもの大量の水が水門に入ってきます。水面が上がることで船も上がります。船は水と共に高い位置を持ち上げられ、流れていくのです。アシュラムの体験もそれに似ています。

私はフルタイムでの仕事のかたわら、八十年前に祖父が始めたアシュラムの活動にも深くかかわり、今、スタンレー・ジョーンズ財団の理事長をしています。アシュラムは、人をイエスキリストに導き、その人が、神との関係を見出し、新しくされ、その関係を深める者に変えられていく助けとなるものです。

当教会のミニ・アシュラムは、一〇月一、二日、「知れ、わたしは神」を主題に、助言者として伊藤節師をお迎えし、三七名（うち他教会からは八教会、一二名）が参加しました。「福音の時」には、伊藤師がヨハネ福音書二一章一五―二二節（テベリヤ湖でのペテロと復活の主との対話及び第一テサロニケ五章一六―二二節（いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感

第七回函館栄光キリスト教会
ミニ・アシュラム報告

佐々木 雄次



謝しなさい)をていねいに講解をされ、永遠の生命を確信し、神さまの求められる生活をしよう、と奨められました。出席者からは「とても分かりやすかった」、「自分をとり巻く生活は困難なことが多いが、励まされた。神さまを信頼し、感謝と祈りを続けたい」などの感想がありました。「賛美と証しの時(ファミリアワー)」には、フォースクウェア教団函館シオン教会の北川勝弘兄と救世軍の山本克己小隊長が証しされました。北川兄は、三〇年にわたって函館朝拝会事務局の責を負われている方ですが、叔父さんの書棚にあったノーマン・ピール著「積極的な考え方の力」を読んだことが教会に導かれるきっかけになったと話され、今年函館小隊に着任された山本小隊長は同小隊が今年創立百年を迎えたこと、ご自身は立正佼成会、統一原理から誘われるという経歴を経て、救世軍に導かれことなどを話されました。祈りの細胞(わたしのグループ)では、苦しい日々を神さまの守り導きによって生かされているという証しと、力強い執り成しの祈りに励まされました。アシュラム後の日々も互いに祈り合うことが続いています。また、「充滿の時」においては多くの証しがなされ、感謝の祈りをもって

閉会いたしました。アシュラム後の反省会(教会役員会)で語られたことは、一つは奉仕者の高齢化に対応して、サービスを簡素化し、皆がアシュラムに集中できるようにすること、もう一つは、アシュラムが信仰生活を見直すよい機会となるよう、アシュラム前の一定期間、静まって自分のニードを明確にし、そのニードに対する答がアシュラムで与えられたかどうかを証しすることでした。今後もアシュラムが信仰の血となり肉となるよう心から願うものです。

日本クリスチャンアシュラム連盟 第21回理事会報告

時・①2015年9月21日(月) 午後一〜二時半 ②23日(水) 午後一〜二時半

- 所・Y M C A 東山荘(御殿場)
- ・出席者・横山義孝、清水潔、岡山敦彦、安藤脩、佐々木雄次、島隆三、横山勲、脇田真一、川村秀夫、欠席者・小島十二、有馬歳弘、唐渡弘、木部安来
- ・陪席者・アン・マシューズ、榎本恵、ジェファニーテラー、石井寛(事務局主事)(敬称略)
- A 開会デイブーション
- B 招待者挨拶並各種報告承認

- (1) 初めに二名の招待者
- ① アン・マシューズ女史並びに
- ② アシュラムセンター主幹榎本恵牧師からの挨拶があり感謝し拍手をもって歓迎しました。
- (2) 函館栄光、東北、関東、関西、九州各地区アシュラムより文書或は口頭によって活動報告がなされ承認されました。
- (3) 理事長並事務局報告

・次に横山義孝理事長よりこの度アン・マシューズ女史を(近江)アシュラムセンター主幹牧師(榎本恵師)と協同で迎えるに至った経緯、意義などが報告され了承されました。

・事務局主事により本部活動並び会計報告等が文書によってなされました。

C 協議事項

- 左記事項が協議承認されました。
- (1) 「日本クリスチャンアシュラム連盟の名による「ホームページの立上げの件」
- (2) 「連盟規約第6条役員に副理事長を入れる件」
- (3) 理事改選並新組織確認の件。理事長・横山義孝、副理事長・清水潔、岡山敦彦、書記・安藤脩、理事・小島十二、横山勲、脇田真一、川村秀夫、推薦理事・佐々木雄次、島隆三(有馬歳弘、唐渡弘、木部安来3氏は申し出でなどにより辞任を承認)

最後に今後の諸活動の積極的な展開を協議して、祈祷を持って終了しました。



アシュラム予告

第47回城北アシュラム
とき 16年2月11日(木)午前10時〜午後4時45分
ところ 日本基督教団新宿西教会
助言者 山口紀子師他教師

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座 東京〇〇一〇〇一四五五八